入之波温泉と山鳩湯

入之波温泉は、大迫ダムの近くにある断崖のふもとに位置している。 毎分約 500 リットルの水が自然に湧き出ている。 湧き出たばかりの水は無色透明だが、数時間もするとうっすらと黄色く濁る。これは、高濃度の鉄が原因で、湧水の周囲の岩も錆びたような黄色に染まっている。この地域には、平安時代(794 年~1185 年)から湧水が存在していたという記録があるが、その存在を裏付ける現存する地図は江戸時代(1603 年~1867 年)のものとなっている。

1973 年に大迫ダムが完成し、源泉はダム湖の底に沈んだ。地元の林業一家である中村家は、湧水への道を再び切り開くことを決意し、150 メートル掘り下げて水源に到達した。1977 年、彼らは温泉旅館である山鳩湯を開業した。

山鳩湯のお湯は 100%源泉かけ流しで、39 度の天然温泉である。露天風呂にはケヤキの大木の幹をくり抜いたもの、内風呂には杉の丸太を柵状に並べたものなど、浴槽はすべて木造である。 しかし、温泉の湯は毎年 1~2 センチものミネラルを沈殿させ、それが木の表面を完全に覆い、まるで荒い陶器のようになっている。

入之波温泉は、炭酸水素塩泉である。夏の間は、露天風呂で渓谷とダムにかかる優美なアーチ橋を眺めながら、ゆっくりと贅沢な入浴を楽しめる。日中は、旅館の 2 階にある食堂が、入浴客とそうでない人々にも利用できるレストランとなる。メニューは幅広く、川魚、採れたての野菜(山菜)、熊、鴨、すずめなどのジビエ料理も提供している。